

垂水浩幸著『グループウェアとその応用』（共立出版，2000年9月発刊）

工学部教授

垂水浩幸

本書は、筆者が研究に携わる「グループウェア」について、概念説明から最新の研究動向までをまとめたものです。グループウェアというのは、計算機とネットワークを利用した、複数の人々の協調的な活動に役立つシステムです。例えば電子会議のようなものから、ビジネスの手順を管理する「ワークフローシステム」や、遠隔教育のシステムなど、さまざまなものがあります。また広義には、不特定多数の人がネットワークを利用して集うコミュニティなども関連研究対象になります。

グループウェアを研究するには、単に技術面からアプローチするだけでは不十分です。複数の人々の協調がどのように行われるのか、社会学的、心理学的な研究アプローチも欠かせません。私は元々技術畑の人間ですが、こういう点に興味を感じました。本書では敢えてこれらの専門外の論点からの解説も試みましたが、これがわかりやすいと好評をいただいています。本当の専門家が解説するよりも、それを苦勞して理解した専門外の者が解説する方が良いこともあるようです。

また、本書では美大出身の知人に頼んで挿絵も描いてもらいました。システム概念の説明図など、論文から転載する場合には原著者の許可が必要になりますが、オリジナルイラ

ストで描き直せば許可が不要になるばかりでなく、より鮮明にわかりやすくなるようです。（それでも10名以上の国内外の研究者から許可をもらって転載を行っています。）

香川大学附属図書館に寄贈いたしました。工学系の教科書ですが、専門外の方でも興味があれば手にとって、1章と6章だけでもお読みになってください。そんなに難しくありません。

